

---

# 表裏の仮面

三途比呂

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

表裏の仮面

### 【Nコード】

N0789C

### 【作者名】

三途比呂

### 【あらすじ】

どちらの仮面を多く使うかで、あなたの将来が決まるとしたら・・・。  
。「表裏の仮面<sup>ひょうり</sup>」、超短編なので、ぜひ、読んでみて下さい。

仁王立ちのそいつは殺気に満ち、血走った眼で俺を睨みつける。鬼の形相という言葉をよく耳にするが、形相というより鬼そのものだ。

「お前が犯した罪は、なにも、目に見えるモノだけではないんだ。よく思い出すのだ、お前はいい人を装ってはいたが、この場所のようになんか心の中は真黒だろう？」

俺がいる場所、そこは雑木林、鬱蒼と生茂る木々の葉が日光を遮ぎり、昼間だというのに薄暗く、座り込んでいる俺から、青い筈の空も見えない。

確かに、俺は嫌な奴だ。我侬でプライドが高く、人の風下に立たされるのが許せない。暴力的で知慮深く、計算高い。少しでも「得」がなければ、他人を絶対に手助けしない。嘘つきで平然と人を騙し、裏切る。そしてなにより、人の不幸が大好きだった。

人の不幸は蜜の味・・・、まさに人の不幸は俺にとって、瑞々しい甘い果実。

今まで、色んな奴の相談を聞く度、沈痛な表情を浮かべ、親身になつて聞く振りをしていたが、内心、ざまあみるとほくそ笑み聞いていた。

友人が事業に失敗した時も、幼馴染が借金で家が差し押さえられた時も、昔の恋人が離婚した時も、同僚が仕事で失敗した時も・・・、俺は心の中で笑っていたのさ。

まるで、瑞々しい甘い果実を味わうかのように、他人の不幸話を堪能し、優越感に酔いしれた。

でも、俺だけじゃない筈だ。

「可哀想」とか「頑張つて」とか言う奴に限って、内心では「ざまあみろ」って思ってるだろ？

人間なんて所詮、そんなもんさ。

「なんで、俺だけ・・・他の奴だって同じじゃないか！頼む、助けてくれ」

「確かにそうだ。全ての人間には、善悪二面の顔が与えられているからな。要は表と裏だ。そして、そのどちらの面を多く使ったかで死後の進路が決まるのだ」

「そ、そんな・・・、あまりにも惨めじゃないか」

そう言つて視線をむけた木の枝に、首吊り自殺した自分がぶら下がっている。

「お前は会社の金を使い込んだ。それがバレて警察に追われ、逃げ切れないと思い、その道を選んだだけだろう？」

「それはそうだが・・・、なんとか助けてくれ、頼む」

「お前が生きていた時、他人を助けたのか？情けをかけたのか？他人にもつと善の顔を向けていれば、今頃、光からの使者が迎えに来ていただろう。だが、審判は下された。お前は闇へと連れていかなければならぬのだ、人間が地獄と呼んでいる場所へな」

「嫌だ、止めてくれ、頼む、頼む」

「無駄だ、もうお前は死んだのだ。生きていれば後の人生、善の顔を使う事で、進路も変える事が出来ようが、今となつては手遅れだ。さあ、ゆくぞ、苦しみしかない闇の世界へ」

俺は、闇からの使者に連れられて、人間が地獄と呼ぶ世界へ落とされた。

「苦しい・・・助けて・・・助けてくれ・・・苦しい、苦しい」

【END】

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0789c/>

---

表裏の仮面

2010年11月23日02時16分発行